

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報

第 11 号

2017 年度版

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

目 次

| | |
|--|----|
| はじめに | 1 |
| I 学術研究の交流 | |
| I - 1 第 15 回日中国際学術セミナーの開催 | 3 |
| I - 2 第一回東アジア六次産業化フォーラムへの参加 | 6 |
| II 日中学術共同調査と共同研究等の成果 | |
| II - 1 第 15 回セミナー後のエクスカージョンの実施 | 10 |
| II - 2 寧夏平羅県楽牧高仁草畜林基地の視察 | 10 |
| II - 3 中日青年科学技術担当者交流プログラムによる河南省視察 | 11 |
| II - 4 研究費の獲得 | 13 |
| II - 5 著書・論文等 | 13 |
| III 2017 年度研究所活動の記録 | |
| III - 1 研究交流活動 | |
| III - 1 - 1 寧夏大学土木与水利工程学院との交流 | 18 |
| III - 1 - 2 研究所運営に関する協議等 | 19 |
| III - 2 2017 年度その他の交流記録 | |
| III - 2 - 1 島根県との情報交換・連携の強化 | 20 |
| III - 2 - 2 寧夏回族自治区科学技術庁との今後の事業展開の協議に向けて | 20 |
| III - 2 - 3 銀川における寧夏島根友好交流関係者同窓会の開催 | 20 |
| III - 3 留学生招致に係る活動 | |
| III - 3 - 1 留学説明会 | 21 |
| III - 3 - 2 留学支援 | 21 |
| III - 4 資料・情報の提供 | |
| III - 4 - 1 翻訳、資料収集と提供 | 21 |
| III - 4 - 2 研究所ニューズレター | 22 |
| III - 5 その他の活動等 | |
| III - 5 - 1 寧夏大学外国語学院に対する支援 | 22 |
| III - 5 - 2 研究所来訪実績 | 22 |

| | | |
|-----|---------------------------|----|
| IV | 研究所の組織..... | 23 |
| | 2017年度の運営体制 | |
| | 客員研究員名簿 | |
| V | 資料その他 | |
| V-1 | 新聞記事等 | 24 |
| V-2 | 国際共同研究所ホームページ・トピックス | 27 |
| V-3 | 研究所ニューズレター | 40 |
| V-4 | 事業計画 | 44 |

はじめに

島根大学・寧夏大学国際共同研究所（以下、研究所）は、中国西北部の寧夏回族自治区の区都・銀川市にある寧夏大学のキャンパス内に設置されています。寧夏大学は自治区を代表する総合大学で、1989年から継続的に研究交流を行っています。本研究所は2004年にJICA（当時のJBIC）のODA事業として建設され、キャンパス内に独立した研究棟を有し、中国側スタッフと共に島根大学と寧夏大学が共同で運営にあたっています。本研究所は「在中国サテライトオフィス」ではなく、学際的共同の推進と共同研究を介した人材育成をミッションとし、わが国で唯一、中国西北部に立地するサテライト研究所であるのが大きな特長です。

2009年には「西部学術ネットワーク」を確立し、中国西北部と北京の有力大学・公設研究所の研究者と学術コンソーシアムを形成し、研究分野の拡大を行っています。2008年から2016年まで研究所が推進した日中共同研究成果を選抜し、学術図書『中国農村における持続可能な地域づくりー中国西部学術ネットワークからの報告ー』を2017年3月に出版しました。本書には、社会科学分野、自然科学分野および複合領域について延べ40名の著者による計15編の学術論文が収められています。寧夏大学と学術交流を開始した当初は研究単位と研究対象は限られたものでしたが、現在では学際的なレベルへと発展しています。

近年では、島根大学の現地駐在研究員による留学説明会や学生との交流会を中国各地で開催しています。大連など沿岸部の大学との連携も計画しており、中国内陸部のみならず中国国内からの留学生を集める努力を行っています。また、研究所内には島根大学、島根県、松江市、（非特）日本寧夏友好協会などから寄贈された約3000冊の日本語図書・雑誌を開架した図書室を設け、寧夏大学生への日本語教育の一助と日本の紹介に努めています。

本研究所は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所第3次基本合意書（2014年3月11日制定）に定められている研究課題に基づき日中の研究者による学際的研究を推進することを主要任務としております。研究者の発掘と研究グループ形成の触媒が研究推進に際して最も重要なものです。2018年度より、島根大学には自然科学研究科博士前期課程が設置されます。数理科学、物理学、情報科学、機械工学、電気電子工学、材料工学、自然災害科学、化学、建築学を専門とする教員が自然科学研究科の専攻に所属することとなりますが、これらの分野は、既往の共同研究におきまして寧夏大学との連携が行われておらず、研究

課題としてあげられていない新規の分野といえます。今後、本研究所は中国西部学術ネットワークの学内外への広報を一層推し進め、新たな研究グループの拡張に努めたいと考えております。関心のある方のご参加を心より歓迎いたします。また、皆様からのますますのご支援をお願い申し上げます。

2017年3月

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

日本側副所長 一戸俊義

I 学術研究の交流

I - 1 第15回日中国際学術セミナーの開催

2017年10月13日（金）、寧夏大学において第15回日中国際学術セミナーを開催した。今年度はメインテーマを「大局的見地からの地域社会の発展に関する学術的対応の可能性」とし、基調報告3本、分科会発表10本、計13本の学術報告が行われた。本学からは、保母武彦顧問、伊藤勝久所長、関耕平副所長、田中奈緒美研究員が参加した。

基調報告は、寧夏大学人文学院の胡玉冰学院長による「寧夏大学図書館が所蔵する日本で印刷された漢語文献5種について」、田中研究員による「話題開始ストラテジーから見る話題転換方法の日中比較研究—メタ言語表現を中心に」、及び蔵志勇研究所中国側副所長による「電子商務取引及び『道の駅』モデルが担い得る寧夏西海固地域の真の貧困削減の促進に対する役割」の3本、分科会では、自然科学、社会科学、人文科学の各分野の報告が行われた。

本セミナーは、研究発表の場であるだけでなく、日中の研究者が対面して意見を交換できる機会となっている。新しい分野の研究者の参加が得られたことで、今後の学際的な共同研究の広がり期待が持てる内容となった。



第 15 回寧夏大学・島根大学国際学術セミナー 全体スケジュール

| 日 時 | | 場 所 | 内 容 | |
|-------------|-----------------------------------|--|---|--|
| 10.12 | 9:00-12:00 | 寧夏大学賀蘭山校区 中日国際共同研究所一階 | 参加者受付 | |
| | | 空港出迎え：蔵志勇 | 保母武彦、伊藤勝久、関耕平 | |
| 10.13 | 8:30-8:35 | 寧夏大学賀蘭山校区 中日国際共同研究所四階 学術報告庁 責任者：蔵志勇 | 開会式 | 司会： 寧夏大学中日国際共同研究所所長 外国語学院学院長 周 震 教授 |
| | 8:35-8:40 | | | 寧夏大学 副校長 許 興 教授 挨拶 通訳：田中奈緒美 |
| | 8:40-8:45 | | | 島根大学国際共同研究所日本側顧問 保母 武彦 名誉教授 挨拶 通訳：崔 沫舒 |
| | 8:45-9:00 | | | 記念撮影 |
| | 8:45-9:00 | | | 休憩 |
| | 9:00-12:00 | | | セミナー主題報告 司会：周 震 教授 報告者（講演 30 分；通訳 30 分）： 1、寧夏大学 胡 玉冰 教授 2、島根大学 田中奈緒美 研究員 3、寧夏大学 蔵 志勇 副教授 通訳：崔 沫舒 |
| | 12:00-14:00 | 昼 食 | | |
| | 14:00-17:00 | 寧夏大学賀蘭山校区 中日国際共同研究所四階 学術報告庁 | 第 1 分科会 責任者： 蔵 志勇 | テーマ：人文・社会科学 司会：伊藤勝久 教授 総括：王 琳琳 教授 通訳：劉 巧迎、韓 芳、王 穎 |
| | | 寧夏大学賀蘭山校区 中日国際共同研究所三階 会議室 | 第 2 分科会 責任者： 李 楊 | テーマ二：自然科学 司会：丁 生虎 教授 総括：李 海波 副教授 |
| | 17:00-17:15 | 休 憩 | | |
| 17:15-17:30 | 寧夏大学賀蘭山校区 中日国際共同研究所四階 学術報告庁 | 閉会式 | 司会：伊藤勝久 教授 総括：蔵 志勇 副教授 通訳：王 穎、田中奈緒美 | |
| 10.14 | 8:00-17:00 | 銀川市現地視察 責任者：蔵 志勇 通訳：蘇 文博 | | |
| 10.15 | 空港見送り；関 耕平 | | | |
| 10.16 | 空港見送り；保母武彦、伊藤勝久 | | | |

第 15 回寧夏大学・島根大学国際学術セミナー 分科会スケジュール・報告テーマ一覧

■ 第一分科会

| 人文・社会科学系 責任者：蔵志勇 | | | | |
|--|-----------------------------|-----------------|------------|--|
| 司会：伊藤勝久 教授 総括：王琳琳 教授 通訳：劉巧迎、韓 芳、王 穎、 | | | | |
| 場所：寧夏大学中日国際共同研究所四階学術報告庁 時間配分：報告 10 分；通訳 10 分；質疑 10 分 | | | | |
| 時 間 | 報告者 | 所属 | 職位 | 報告テーマ |
| 14:00-14:30 | 王琳琳 | 寧夏大学 人文学院 | 教 授 | 本土創作を堅守した実験型作家 －夏目漱石の『三四郎』を読む－ |
| 14:30-15:00 | 梁 梅 | 寧夏大学 人文学院 | 副教授 | 毛奇齡の試律詩学理論とその影響 |
| 15:00-15:30 | 于鳳艳 | 寧夏大学 人文学院 | 副教授 | 『雪国』と『清水里的刀子』の 身体叙述に関する分析 |
| 15:30-16:00 | 保母武彦 | 島根大学 | 名 誉 教 授 | 中国農村の持続的発展の 参考にしたい日本の経験 －島根県・邑南町の実践と教訓－ |
| 16:00-16:30 | 伊藤勝久 | 島根大学 生物資源科学部 | 教 授 | 橋渡し型ソーシャル・キャピタルと 地域活力の源泉 |
| 16:30-17:00 | 関耕平 | 島根大学 法文学部 | 准教授 | 日本における農業の「担い手」支援 と地方政府による農業政策の展開 －地方政府・公的セクターによる 農家への支援・農業参入を事例に－ |
| 17:00-17:15 | 休 憩 | | | |
| 17:15-17:30 | セミナー総括：寧夏大学賀蘭山校区中日国際共同研究所四階 | | | |

■ 第二分科会

| 自然科学系 責任者：李楊 | | | | |
|--|-----------------------------|--------------------------|----------|---|
| 司会：丁生虎教授 総括：李海波副教授 | | | | |
| 場所：寧夏大学中日国際共同研究所三階会議室 時間配分：報告 10 分；通訳 10 分；質疑 10 分 | | | | |
| 時 間 | 報告者 | 所属 | 職位 | 報告テーマ |
| 14:30-15:00 | 丁生虎 | 寧夏大学 数学統計学院 | 教 授 | 機能傾斜ラミネート結合における 界面亀裂の熱弾性に関する分析 |
| 15:00-15:30 | 李海波 | 寧夏大学 太陽光発電材料 重点実験室 | 副教授 | グラフェン電極に基づく デソルト技術の進展について |
| 15:30-16:00 | 郜 鉄 | 寧夏大学 太陽光発電材料 重点実験室 | 修士 院生 | 雑化カーボンナノクラスターの調整 と海水の淡水化分野における応用 |
| 16:00-16:30 | 周 峰 | 寧夏大学 太陽光発電材料 重点実験室 | 修士 院生 | 高性能ソディウムチタンナノチューブの 非対称電溶脱イオン技術における応用 |
| 17:00-17:15 | 休 憩 | | | |
| 17:15-17:30 | セミナー総括：寧夏大学賀蘭山校区中日国際共同研究所四階 | | | |

I - 2 第一回東アジア六次産業化フォーラムへの参加

2017年11月16日（木）、中国陝西省楊凌の西北農林科技大学にて、第一回東アジア六次産業化フォーラムが行われ、本研究所から関副所長と田中研究員が参加した。このフォーラムは、西北農林科技大学、楊凌モデル（規範）区管理委員会、大学新農村発展研究院共同刷新戦略連盟による共同開催で、日中の研究者及び企業の代表者計 9 名による報告が行われ、約 200 名が参加した。

午前中は主題報告として、日本側から農林中金総合研究所の皆川芳嗣理事長による「日本における六次産業化—六次産業化論の系譜と今日的意義」、中国側から復旦大学の張来武教授による「中国における六次産業発展」の 2 本の報告があった。ここでは両国における六次産業化理論の発展と実践の概要について議論された。

午後からは 7 本の個別事例を中心にした報告が行われ、当研究所からは関副所長による「島根県における六次産業化の実態—吉田ふるさと村を事例に」の報告が行われた。島根県雲南市に立地する吉田ふるさと村は、農産物加工から事業を始め、その後、ここ 10 年ほ

どのあいだに、観光や宿泊施設の運営、さらには原料生産（農業）に参入し、地域再生に取り組んでいる。とくに一次産業へ参入することで、安心安全が厳密に担保される原料の生産が可能になっている点など、六次産業化論への示唆を提示した。この事例に対する関心は高く、中国側研究者からは、ぜひ訪問してみたいといった声が聞かれた。

中国側の報告は、六次産業化の理論を実践している企業経営者からのものも多くみられ、農村での六次産業化を模索している中国農村の生き生きとした姿を垣間見ることができた。

東アジアの六次産業をテーマにしたフォーラムは今回が初めてで、来年度以降も継続的に開催していくことが確認された。

○スケジュール

会 議 日 程

11月15日

09:00-22:00 会場到着

到着報告場所:西北農林科技大学ゲストハウス

18:00-19:30 夕食 西北農林科技大学ゲストハウス内のレストラン

11月16日

07:30-08:30 朝食 西北農林科技大学ゲストハウス内のレストラン

09:00-09:30 開幕式

場所：西北農林科技大学ゲストハウス 会議室1

司会：楊凌示範区管理委員会 劉天雄副主任

議事日程：

- 1.楊凌示範区党工委員書記 郭社栄の挨拶；
- 2.西北農林科技大学常務副書記 趙忠致による歓迎の辞；
- 3.日本農林中金総合研究所 皆川芳嗣理事長の挨拶；
- 4.復旦大学、西北農林科技大学六次産業研究院院長
張来武教授の挨拶；
- 5、記念写真（ゲストハウス）、休憩

09:30-11:30 主題報告

場所：西北農林科技大学ゲストハウス 会議室1

司会：西北農林科技大学 錢永華副校長

議事日程：

1、皆川芳嗣理事長による“日本における6次産業化—6次産業化論の系譜と今日的意義”の報告；

2、張来武教授による“中国における6次産業発展”の報告。

12:00-13:30 昼食 西北農林科技大学ゲストハウス内のレストラン

14:30-17:30 学術報告

場所：西北農林科技大学ゲストハウス 会議室1

司会：西北農林科技大学六次産業研究院副院長、国際協力と交流所所長 余勁教授

議事日程：

1、日本立命館大学、高屋和子教授による“中国の食糧安全保障と世界的な産業チェーンの発展—中糧集団有限公司(COFCO)を例に”の報告；

2、西北農林科技大学経済管理学院院長、趙敏娟教授による“中国穀物産業発展の機会、課題と動向：ソバからの分析”の報告；

3、日本島根大学、関耕平副所長による“島根県六次産業化の実際の状況—吉田村を例に”の報告；

4、重慶市峻園技術開発有限公司の理事長、徐靖雯による“重慶市峻園技術開発有限公司の6次産業革新と創業”の報告；

5、西北農林科技大学経済管理学院副院長、夏显力教授による“特徴的な地方の多次元の開発とモデルイノベーション—6次産業の視点から”の報告；

6、陝西省柞水県花卉産業開発有限公司の理事長、陳盛林による“第六次産業の現代農業における運用”の報告；

7、河南省龍須坡農業有限公司理事長、杜宮輝による“第六次産業の理論と実行”の報告。

18:30-19:30 夕食 西北農林科技大学ゲストハウス内のレストラン

11月17日

07:00-08:00 朝食 西北農林科技大学ゲストハウス内のレストラン

08:00-16:00 視察 西北農林科技大学千陽リンゴ試験示範エリア

18:00-19:30 夕食 西北農林科技大学ゲストハウス内のレストラン

○写真



Ⅱ 日中学術共同調査と共同研究等の成果

Ⅱ - 1 第 15 回セミナー後のエクスカージョンの実施

日中セミナー終了後の 2017 年 10 月 14 日、日本からの参加者向けに寧夏自治区内でエクスカージョンが実施され、銀川市西部郊外に位置する華西村を訪問した。華西村は、中国の中でも一早く経済発展を遂げた江蘇省江陰市にある同名の村の支援により、1996 年に作られた村で、主に寧夏の南部山区からの移民 1000 戸余り約 6000 人が暮らしている。近年、付近には映画村や温泉施設が作られ、農業以外にサービス業に従事する村民も多いという。村の内部と周辺の旅行関連施設等の状況について視察を行った。

○視察写真



Ⅱ - 2 寧夏平羅県楽牧高仁草畜林基地の視察

2017 年 10 月 15 日、寧夏自治区平羅県にある寧夏平羅県楽牧高仁草畜林基地を視察した。この楽牧高仁基地を経営する寧夏楽牧高仁農業開発有限公司の CEO である呂学虎氏は、1993 年まで島根県の国際交流員として日本に滞在しており、その縁で視察が実現した。呂氏は、銀川市内の商業施設の株主として投資会社を経営する傍ら、2016 年 2 月にふるさとである平羅県にこの基地を設立した。

楽牧高仁基地では、肉用牛の養殖を中心に、飼料利用を目的とした草、りんごや梨等の果樹の栽培を行っている。現在、2000 頭余りの肉用牛を飼育しており、そのうち 500 頭がオーストラリアで購入した直営牧場から種牛として輸入したもので、将来的には 5 万頭規模の養殖場にする予定だということである。

また、楽牧高仁基地はモウス砂地の西端に位置しており、草地の育成や果樹栽培は、経済的利益が期待されるだけでなく、砂漠化した植生の回復にも一役買っている。砂漠は農薬等で汚染されていないため、有機農業の方法を採り、安全な農畜産物を市場に提供した

いということである。

○視察写真



Ⅱ - 3 2017年度中日青年科学技術担当者交流プログラム訪中団への参加

科学技術振興機構（JST）が実施するさくらサイエンスプラン（中国からの若手研究者の短期招へい事業）に呼応し、2016年度より中日青年科学技術担当者交流プログラムが実施されている。これは、中国政府による日本の行政官・大学関係者を招へいするプログラムである。2017年11月28日から12月3日にかけて実施された本プログラムに、共同研究所から関副所長が参加した。

河南省鄭州市を中心に鄭州大学の研究施設、ソフトウェア開発の企業、製薬工場、大型機械やバスの製造現場といった先進事例を視察し、中国の大学関係者や政府機関との交流とともに、日本国内から参加している若手技術者・研究者とのネットワークも構築することができた。

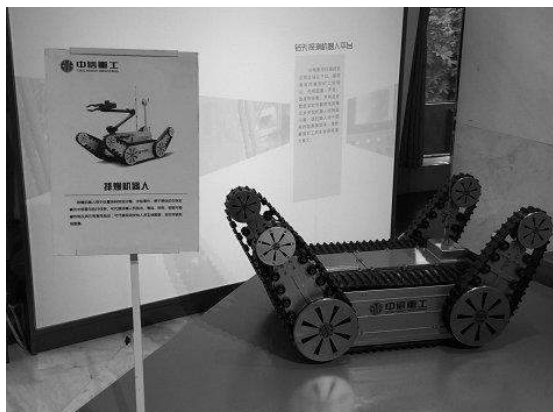
中国の最先端のメーカーが国際競争力を持つことなどを実感する貴重な機会となった。また、各製造現場や工場見学において、生産規模や製品の大きさが、日本との対比でいえば規格外であり、中国の製造業のスケールの大きさを感じさせるものであった。一方で、

日本における繊細な先端技術や行き届いたソフト面を念頭に置くと、日中が科学技術分野で、国際共同・協力をすすめ相互補完的な役割を発展させることで、無限の可能性が広がるのではないかと予感させる研修内容であった。この点で、今後の国際共同研究所の活動方向性についても展望できる貴重な機会となった。

○スケジュール

| 日程 | 時間 | スケジュール | ホテル及び訪問先住所 |
|--------------|-------------|---|----------------------------------|
| 11.28 (火) | | 午前:北京空港集合 | |
| | 15:00-17:30 | さくらサイエンスプラン成果報告会 | ホテル中国職工之家 B座多功能庁西庁 |
| | 18:00-20:00 | 歓迎晩餐会 | ホテル中国職工之家 C座1F 山水湘連宴会場 |
| | 07:00-08:45 | 朝食 | ホテル中国職工之家 C座1F 山水湘連宴会場 |
| 11.29 (水) | 09:00-11:30 | 中国科学技術部、外交部、農業部、環境保護部などの関係者による講演 | ホテル中国職工之家 B座多功能庁西庁 |
| | 11:30-12:30 | 昼食 | ホテル中国職工之家 C座1F 山水湘連宴会場 |
| | 12:30-12:40 | ホテルチェックアウト | |
| | 12:40-13:45 | 高速鉄道駅移動 | |
| | 14:05-17:20 | 北京市→鄭州市 高速鉄道G519 | |
| | 17:20-18:20 | 鄭州南駅バス送迎 ホテルチェックイン | ホテル:鄭州国際会展中心和頤和酒店 |
| | 18:50 | 夕食 | ホテル和頤酒店 4F 怡悦餐厅 |
| 11.30 (木) | 7:00-8:00 | 朝食 | ホテル和頤酒店 4F 怡悦餐厅 |
| | 8:10 | 集合 | ホテル和頤酒店 ロビー |
| | 9:00-11:00 | 鄭州大学訪問 | 鄭州市科学大道100号 |
| | 11:00-13:30 | 863インキュベーションセンター訪問 863コーヒー食堂で昼食 (河南省最大のベンチャー企業育成基地) | 鄭州市高新区翠竹街6号863孵化園 |
| | 15:00-17:30 | 宇通客車集団訪問 河南省最大の自動車・バス製造企業 | 鄭州市管城区宇通路 |
| | 18:30 | 夕食 | ホテル和頤酒店 4F 怡悦餐厅 |
| | 7:00-8:00 | 朝食 | ホテル和頤酒店 4F 怡悦餐厅 |
| 12.01 (金) | 8:00-8:10 | ホテルチェックアウト、集合 | ホテル和頤酒店 ロビー |
| | 9:30-11:30 | 中信重工機械股分公同訪問 (大手機械製造企業) | 洛陽市建設路206号 |
| | 11:30-13:00 | 昼食 | 中信重工付近 |
| | 14:00-16:30 | 世界遺産龍門石窟見学 | 洛陽市伊東路龍門石窟景区 |
| | 18:00 | 晩餐 ホテルチェックイン | ホテル:鄭州滬芸万怡酒店 Tel:400 920 5538 |
| | 8:10 | 集合 | ホテル万怡酒店ロビー |
| 12.02 (土) | 9:00-11:00 | 輔仁薬業集団訪問 (河南省大手医薬企業) | 鄭州市市花園路25号輔仁大厦 |
| | 11:30-12:30 | 昼食 | ホテル万怡酒店 3F万怡軒餐厅 |
| | 14:30-16:30 | 鄭州市新区視察 | 鄭州市新区 |
| 12.03 (日) | 18:30 | 歓送晩餐会 | ホテル万怡酒店 4F多功能6庁 |
| | 6:00-6:20 | 朝食 | ホテル万怡酒店 3F万怡軒餐厅 |
| | 6:30 | チェックアウト、集合 | ホテル万怡酒店ロビー |
| | 7:41-10:24 | 鄭州駅→北京西駅 高速鉄道G802 | |
| | 11:30-13:30 | 北京西駅→北京首都空港 昼食あり NH962/CA421北京首都空港 | |

○視察写真



Ⅱ - 4 研究費の獲得

○科研費

- ・伊藤勝久「中山間地域における林業合理化・森林管理・住民生活の為のマネジメント＝モデルの構築」基盤研究 A (研究代表：堤研二・大阪大学教授)、2017 年度、49.3 万円、研究分担者
- ・関耕平「人形峠ウラン残土問題の実証研究：放射性廃棄物をめぐる地域紛争の検証」若手研究 B、2016～18 年度、208 万円、研究代表者
- ・関耕平「ネクサス構造に着目した地域環境ガバナンスの包括的研究」基盤研究 B (研究代表：八木信一・九州大学准教授)、2016～18 年度、70 万円 (2017 年度分)、研究分担者
- ・関耕平「産業連関モデルを用いた原子力発電所立地自治体の経済・財政構造分析」基盤研究 C (研究代表：三好ゆう・福知山公立大学准教授)、2016～18 年度、70 万円 (2017 年度分)、研究分担者
- ・関耕平「福島原発被災地における帰還住民の生活再建と復興基金制度の意義に関する研究」基盤研究(C) (研究代表：除本理史・大阪市立大学教授)、2017～2019 年度、70 万円 (2017 年度分)、研究分担者
- ・田中奈緒美『先行話題未終了転換』が招くミスコミュニケーション—一日中接触会話の分析から— 奨励研究、2017 年度、38 万円、研究代表者

○その他外部資金

- ・伊藤勝久「島根県「水と緑の森づくり」アンケート調査に関する研究」共同研究、島根県、2017 年度、22.4 万円

Ⅱ - 5 著書・論文等

○伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所所長)

【図書】

伊藤勝久「第 6 章 農業・農村の新しい取り組み」、「第 7 章 森林・林業の新しい取り

組み]、「第10章 農山村のコミュニティー」、「第15章 都市と農山村の比較検討」、放送大学テキスト『都市と農山村から見る身近な経済』（伊藤勝久・坂田裕輔・新井圭太・坂井素思共著）所収、108-126、127-146、182-201、273-290、放送大学教育振興会、全296頁、2018年1月、ISBN978-4-595-31880-1

【口頭報告】

伊藤勝久・周榆涵「橋渡し型ソーシャル・キャピタルと地域活力の源泉」、第15回日中国際学術セミナー、寧夏大学、2017年10月

【その他】

伊藤勝久「林家の経営マインドについて —森林所有者アンケート結果の報告—I」、山林1598、18-26、大日本山林会、2017年7月

伊藤勝久「林家の経営マインドについて —森林所有者アンケート結果の報告-II」（完）、山林1599、26-35、大日本山林会、2017年8月

伊藤勝久「森林の二酸化炭素吸収機能を考える～その意義と保全対策～」、NOSEIKEN 377、2-7、島根農政研究会、2017年7月

伊藤勝久「2017(H29)年度 島根県水と緑の森づくりアンケート調査報告書」、伊藤勝久・島根県林業課、全37頁、2018年3月

【講演等】

伊藤勝久「木を燃やしてどうして温暖化防止になるの？ またどうして地域活性化になるの?」、しまね自然と環境財団・エコナイト主催の研修会、奥出雲町、2017年8月5日

伊藤勝久「第6回 農業・農村の新しい取り組み」（+坂田）、「第7回 森林・林業の新しい取り組み」（+坂田）、「第10回 農山村のコミュニティー」（+坂井）、「第15回 都市と農山村の比較検討」（+坂田、坂井、新井）。放送大学放送教材『都市と農山村から見る身近な経済 '18』

○一戸俊義（島根大学生物資源科学部教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長）

【論文】

Nobuyuki Kobayashi, Fujiang Hou, Atsushi Tsunekawa, Xianjiang Chen, Tianhai Yan and Toshiyoshi Ichinohe. Effects of substituting alfalfa hay for concentrate on energy utilization and feeding cost of crossbred Simmental male calves in Gansu Province, China. *Grassland Science*, *Grassland Science*, 63:245-254. 2017 April.

Shigdaf Mekuriaw, Firew Tegegne, Atsushi Tsunekawa and Toshiyoshi Ichinohe. Effects of substituting concentrate mix with water hyacinth (*Eichhornia crassipes*) leaves on feed intake, digestibility and growth performance of Washera sheep fed rice straw-based diet. *Tropical Animal Health and Production* (in press).

<https://doi.org/10.1007/s11250-018-1519-5>

井上憲一・一戸俊義・千田雅之、集落営農放牧の組織化過程と運営体制に関する考察. 食

農資源経済論集 69(2) (印刷中)

【口頭報告】

小椋麻衣・松野 景・宋 相憲・坂本真実・帯刀一美・柴田昌宏・山本直幸・一戸俊義、「赤身牛肉生産を目指した輪換放牧による黒毛和種去勢牛の周年放牧肥育」、第 67 回関西畜産学会大阪大会、2017 年 9 月 18 日、堺市

柴田昌宏・帯刀一美・坂本真実・西 政敏・安部 聖・宋 相憲・山根 尚・寺井恵子・松本和典・一戸俊義・山本直幸、「耕作放棄地を活用した周年放牧肥育による黒毛和種去勢牛の肥育・枝肉成績」 第 55 回肉用牛研究会島根大会、2017 年 11 月 16 日、出雲市

Shigdaf Mekuriaw, Atsushi Tsunekawa, Toshiyoshi Ichinohe, Nobuyuki Kobayashi, Nigussie Haregeweyn and Firew Tegegne. Animal Feed Technological Development for Feeding Efficiency and market price stabilization in Japan; what lessons can be learnt for developing countries like Ethiopia? Feed the Future Innovation Lab for Livestock Systems 2018 Global Nutrition Symposium. 25th January 2018. Addis Ababa, Ethiopia.

○関耕平（島根大学法文学部准教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所副所長）

【論文】

関耕平「地域再生を目指して：「地方創生政策」批判」『学習の友』第 772 号、2017 年 12 月号、22-25

関耕平「三江線廃線と沿線地域のこれから：地域の持続可能性とローカル線の役割」『住民と自治』第 653 号（2017 年 9 月号）、31-33

関耕平「三江線廃止とローカル線存続の課題：地域の持続可能性と鉄道の役割」『経済』2018 年 3 月号、72-83

関耕平「三江線資産一括無償譲渡／県が一時、維持管理を」山陰中央新報・談論風発、2017 年 5 月 28 日付

関耕平「第 7 章 中国農村部における農業プラスチックの使用実態の解明と適正処理へ向けて：寧夏回族自治区における調査から」島根大学・寧夏大学国際共同研究所編『中国における持続可能な地域づくり：中国西部学術ネットワークからの報告』今井印刷

関耕平「産業廃棄物政策における公私分担の展開：「公共関与」の変容過程の分析」一橋大学博士学位取得論文、2017 年 7 月

【口頭報告】

関耕平「三江線沿線地域のこれからのを考える」口羽公民館主催『ありがとう三江線。そして語ろう。』、邑南町口羽公民館、2018 年 2 月 24 日

関耕平「公害被害地域における環境再生と地域再生の動向：足尾を中心に」日本環境学会第 43 回研究発表会、北海学園大学、2017 年 7 月 2 日

関耕平「シンポジウム『ともに考えよう 三江線沿線のこれから』」、悠邑ふるさと会館、

2017年6月24日

関耕平「島根県における六次産業化の実態—吉田ふるさと村を事例に」『第一回東アジア六次産業フォーラム』、西北農林科技大学（中国陝西省楊凌）、2017年11月16日

関耕平「日本における農業の「担い手」支援と地方政府による農業政策の展開：地方政府・公的セクターによる農家への支援・農業参入を事例に」第15回日中国際学術セミナー、寧夏大学、2017年10月13日

【その他】

企画展示「地域コミュニティラボ展示 三江線へのまなざし」島根大学附属図書館

○保母武彦（島根大学名誉教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所顧問）

【論文】

保母武彦「全国各地のまちづくりの教訓に学び、地域の再生をどう進めるか——小規模事業者の多彩な役割を發揮して——」『中小商工業研究』135号 2018年3月

保母武彦「持続可能な公共施設」、『地方議会人』、全国市議会議長会・全国町村議会議長会共同編集、6-7、2018年2月

保母武彦「農村の『村おこし』から学ぶ『まちづくり』のヒント」『区画・再開発通信』2018年2月

保母武彦「環境未来都市は循環型のまちづくりを基本に」、『住民と自治』通巻657号、26-29、2018年1月

保母武彦「原発避難計画問題総論」、『環境と公害』第47巻第2号、3-8、2017年10月

【口頭報告】

保母武彦「有機農業が持続可能な地域を創る～日本における現状と展望～」、第4回車河国際有機農業フォーラム、中国山西省大同市、2017年8月19～20日

○田中奈緒美（島根大学・寧夏大学国際共同研究所研究員）

【論文】

田中奈緒美「話題の関連性を示すメタ表現とその使用条件」『言語文化研究』、大阪府立大学人間社会システム研究科、55-70、2018年3月

【口頭報告】

田中奈緒美「話題開始ストラテジーから見る話題転換方法の日中比較研究—メタ言語表現を中心に」、第15回日中国際学術セミナー、6-7、中国寧夏回族自治区銀川市、2017年10月13日

田中奈緒美「『那』と『じゃあ』が導く発話の発話機能の相違について」、中国語話者のための日本語教育研究会、中国陝西省西安市、2018年3月17-18日

○鄭 蔚（南開大学日本研究院日中農業発展研究センター主任・副教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【論文】

鄭蔚「戦後日本の農業発展および供給側改革について」『南開日本研究』2017年、天津人民出版社、56-76、2017年12月

鄭蔚「グローバル低金利と日本の金融政策」『日本経済白書』2017年、社会科学文献出版社、2017年5月

【その他】

鄭蔚「日本企業海外M&Aの動向」、人民日報、2017年10月27日

鄭蔚「日本の国債リスクとその影響」、人民日報、2017年6月23日

○胡 勇（北京農学院文法学部教授、島根大学・寧夏大学国際共同研究所客員研究員）

【著書】

胡 勇、「第3章 研究設計」と「第4章 I 理論分析」と「第4章、II 実地調査分析：懷柔、通州、平谷、昌平」と「第5章、問題分析」、『北京郊外農村の障がい者に対するコミュニテイリハビリの現状と問題について』、中国農業出版社出版、胡 勇・李 宝龍・閻 曉軍共著(20万字)、2017年2月

【論文】

馬 佳俊・韓 芳菲・常 利絹・趙 婷・胡 勇、「農業科学技術サービスの実地に対する思考—北京市平谷劉家店地域を例として」『科教導刊(電子版10月)』(2)、223-224、2017年10月

韓 芳菲、常 利絹・趙 婷・馬 佳俊・胡 勇、「北京郊外農村における“インターネット+休暇農業”の発展状況について」『信息記録材料』第19巻3期、204-205、2018年3月

【口頭報告】

胡 勇「障がい者ソーシャルワーク分野における新しい職業の模索」、2017北京国際リハビリシンポジウム第8論壇、2017年9月15日、北京

Ⅲ 2017 年度研究所活動の記録

Ⅲ - 1 研究交流活動

Ⅲ - 1 - 1 寧夏大学土木与水利工程学院との交流

2018 年 3 月 22 日、寧夏大学土木与水利工程学院の申し出により、伊藤所長と関副所長の寧夏大学訪問の機会に合わせて、同学院で講演と座談会を行った。同学院は、研究・教学の国際化を図るため、教員及び学生の国際交流を推し進めており、その一環として、研究所を通じて島根大学の関連分野の教員や学生との交流の可能性を探るため、今回の機会が設けられた。なお、同学院の毛明傑学院長、楊秋寧教授、張文博副教授は、2016 年に島根大学を訪れ、総合理工の関連分野の教員と交流したことがある。

まず、土木・建築関連分野では、建築作業等の過程における材料の再利用や、廃棄物を利用した建築材料の使用等、環境に対する配慮が叫ばれていることから、廃棄物処理に関する政策について研究する関副所長が、日本の廃棄物処理の状況及び中国で行った調査に基づく中国の状況について講演を行った。講演には、同学院で学ぶ約 80 名の大学院生が出席し、熱心に耳を傾けた。

続いて、同学院の会議室にて座談会が行われ、今後の交流に向けて意見を交換した。座談会では、高継明書記と劉海峰副学院長から同学院の状況について説明を受けた後、交流が可能な分野や、教員や学生の短期研修の受入が可能かどうかについて、島根大学の状況に基づいて説明した。特に、学生は国際的な交流が少ないため、多くの学生が研修に参加できるように、短期の研修を数多く行いたいとのことだった。研究所としても、今回の交流を機に、新たな分野での協力関係を築いて行きたいと考えている。

○スケジュール

2018 年 3 月 22 日 (木)

14:30～16:00 関副所長による講演

テーマ：「日本におけるリサイクルと廃棄物処理の実態－建設廃棄物を中心に」

16:00～17:00 座談会

出席者：

日本側) 伊藤所長、関副所長、田中研究員

中国側) 高継明書記、劉海峰副学院長、楊秋寧教授、李紅元研究所中国側副所長、王穎外国語学院講師

○写真



Ⅲ - 1 - 2 研究所運営に関する協議等

1) 2017年6月29日 運営委員会 (島根大学)

(国際交流課会議室、伊藤、一戸、周震、蔵志勇)

協議内容

- ・第15回日中学術セミナーについて
- ・寧夏大学日本語科学生の日本派遣について
(この議題に関しては、島根大学国際交流センター青教授・李助教、外国語教育センター廣瀬教授、国際交流課田部補佐も同席。)

2) 2017年10月14日 運営委員会 (寧夏大学)

(研究所会議室、保母、伊藤、田中、蔵志勇)

協議内容

- ・寧夏大学日本語科学生の日本派遣について
- ・その他情報交換 (JICA 支援、研究資金など)

3) 2018年3月22日 運営委員会 (寧夏大学)

(外国語学院会議室、伊藤、関、田中、周震、蔵志勇、李楊)

協議内容

- ・2018年度事業計画について

- ・第16回日中セミナー（日本で開催予定）の日程について
- ・第4次基本合意書の締結について
- ・交換留学制度を利用した寧夏大学日本語科学生の訪日研修について
- ・さくらサイエンスの申請について
- ・その他情報交換

Ⅲ - 2 2017年度その他の交流記録

Ⅲ - 2 - 1 島根県との情報交換・連携の強化

2018年1月17日、研究所分室にて、島根県文化国際課の三宅香織企画員と協議を行い、以下の内容に関して情報交換を行った。

- ・島根県と寧夏回族自治区の友好提携25周年に係る祝賀行事について
- ・島根県「交流の翼」事業について
- ・寧夏大学から島根県立大学への学生受入状況について
- ・4月 寧夏からの訪問団について
- ・寧夏からの環境専門職員の派遣依頼について

Ⅲ - 2 - 2 寧夏回族自治区科学技術庁との今後の事業展開の協議に向けて

寧夏回族自治区人民政府は寧夏回族自治区において様々な分野で貢献した外国人に対して「六盤山友誼賞」を贈っているが、2017年度の受賞者として、林秀樹氏（山陰地域資源研究所代表）が選定された。林氏は島根県の職員として、JICAの草の根技術協力事業による寧夏回族自治区における水環境改善プロジェクトの先頭に立ち、2007年から2016年3月までの9年にわたって、現地での技術指導や人材育成の実施の先頭に立ってきた。

林氏と寧夏回族自治区科学技術庁との懇談のなかで、環境修復技術や環境保全型の畜産技術、防災といった研究課題の重要性や技術・研究協力の必要性、当研究所との共同プロジェクト実施の可能性が話題にのぼった。

林氏の帰国後、12月8日に研究所メンバーと林氏が協議し、今後、寧夏回族自治区の科学技術庁と連絡を取りながら、人材育成への協力や共同プロジェクト実施の可能性を探ることとした。

Ⅲ - 2 - 3 銀川における第2回寧夏島根友好交流関係者同窓会の開催

2017年6月4日、NPO法人日本寧夏友好交流協会との共同主催により、2回目となる寧夏島根友好交流関係者同窓会を行った。この同窓会は、島根県民交流団の寧夏訪問に合わせて開催したもので、島根県滞在経験のある留学生や交流員、研修生の他、在寧日本人ら74名が参加した。

○概要

開催目的：島根県民交流団の寧夏訪問に合わせ、関係者との旧交を暖める。また、2018年に寧夏と島根の友好関係が25周年を迎えるのに際し、祝賀行事に関する意見を聴取する。

日時：2017年6月4日（水）18:30～21:00

場所：万達嘉華酒店 3階宴会3庁

○写真



Ⅲ - 3 留学生招致に係る活動

Ⅲ - 3 - 1 留学説明会

今年度開催・参加した留学説明会は以下の通り。

- ①寧夏大学日本語科学生に向けた交換留学説明会（研究所主催、2017年11月6日、田中）
- ②在上海日本国総領事館における留学フェアへのブース参加（在上海日本国総領事館主催、2017年11月11日、田中）
- ③西北農林科技大学における留学説明会（研究所主催、2017年11月15日、田中）
- ④大連東軟信息学院における留学希望者交流会（研究所主催、2017年12月15日、田中）

Ⅲ - 3 - 2 留学支援

日本留学希望者に対して、相談対応（留学方法に関する説明、資料の配付等）や派遣支援（指導教官とのマッチング、書類作成指導等）を行った。また、日本への留学や日本人研究者との交流を目的とする日本語学習希望者に、研究所内にて日本語指導を行った（2017年度実績：教員2名、学生1名）。

Ⅲ - 4 資料・情報の提供

Ⅲ - 4 - 1 翻訳、資料収集と提供

- ・日本側研究者からの必要・要望に応じて翻訳を行った。
- ・翻訳物一覧を研究所HPに掲載した。

【翻訳成果一覧ページ】<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/honyakuichiran.html>

Ⅲ - 4 - 2 研究所ニューズレターの発行

- ・学内向け広報としてニューズレターの発行・配付を行った。(2017年8月、2018年3月、内容は「V資料その他 V-3 研究所ニューズレター」を参照)

Ⅲ - 5 その他の活動等

Ⅲ - 5 - 1 寧夏大学外国語学院に対する支援

- ・講義の担当(週2回程度、今年度担当授業:発音、会話)
- ・日本語コーナー等イベントへの参加

Ⅲ - 5 - 2 研究所来訪実績

2017年度

| 月 日 | 訪 問 者 |
|----------------|----------------------------------|
| 4月13日 | JICA 中国事務所 川村怜子所長助理 |
| 10月12日 ～16日 | 保母武彦顧問、伊藤勝久所長、関耕平副所長 |
| 10月21日 | 特定非営利活動法人日本寧夏友好国流協会 新出雄彦事務局長他、6名 |
| 3月21日 ～24日 | 伊藤勝久所長、関耕平副所長 |

IV 研究所の組織

○2017年度の運営体制

| 役職 | 日本側 | 中国側 |
|-----|-------------------------|----------------------------------|
| 顧問 | 保母武彦 (島根大学名誉教授) | 陳育寧 (前寧夏大学長) |
| 所長 | 伊藤勝久 (島根大学生物資源科学部教授) | 周震 (寧夏大学教授) |
| 副所長 | 一戸俊義 (島根大学生物資源科学部教授) | 臧志勇 (寧夏大学副教授) |
| | 関耕平 (島根大学法文学部准教授) | |
| 研究員 | 田中奈緒美 ※現地駐在 | 王鋒 (寧夏大学教授) 李楊 (寧夏大学助教) |

○客員研究員名簿

| 氏名 | 所属 | 研究分野 |
|-------|-------------------------------|----------------------------|
| 鄭蔚 | 中国 南開大学日本研究院 | 農業経済学、金融学 |
| 周建中 | 日本 東京成徳大学人文学部 | 生物環境科学、民族歴史文化、人口と教育問題 |
| 高橋健太郎 | 日本 駒沢大学文学部地理学科 | 人文地理学 |
| 胡霞 | 中国 中国人民大学经济学院 | 発展経済学、農業経済学 |
| 富野暉一郎 | 日本 龍谷大学法学部 | 市民自治、調和型連動社会、地域環境政策 |
| 胡勇 | 中国 北京農学院人文社会科学部 | 社会学、社会福祉学 |
| 張偉 | 中国 北京工商大学经济学院 | ミクロ金融、発展金融、中小企業融資、東アジア金融協力 |
| 大西広 | 日本 慶應義塾大学経済学部 | 統計学、経済システム論、中国経済数量分析 |
| 氏川恵次 | 日本 横浜国立大学大学院 国際社会科学部研究科 | 経済政策・環境経済 |
| 谷口憲治 | 日本・就実大学経営学部 | 農業経済 |
| 劉海濤 | 中国・大連東軟信息学院 | 農村金融 |
| 栗畑恭介 | 日本・九州国際大学経営学部 | 農村社会と農業の持続可能性 |

V 資料その他

V-1 新聞記事等

■日中友好新聞 2017年8月15日(火)掲載記事

書評

『中国農村における 持続可能な地域づくり』

(島根大学・寧夏大学共同研究所編)



中国の農村・農民・農業の現状や改善方向をこれほど見事に具体的に描き出した本は数少ない。日中双方の社会・自然科学研究者によって書かれた15編のすべてが行き届いた現

場調査に支えられ、貧困・環境改善の提言も説得力がある。本書の主対象は寧夏回族自治区であるが、出稼ぎ、農村小金融、帰郷農民工の起業、山村住民の低地移住、退

耕還林・封山禁牧政策、農業プラスチック回収・農業廃水問題、ダム移住者問題など多様な問題が取り上げられ、現状も課題も浮き彫りにされている。

道で組織的な共同研究を続けてきたためである。05年には、JICA(独立行政法人国際協力機構)の援助で立派な共同研究棟まで建てたという。驚き、脱帽するほかない。

しかも『中国農村の貧困克服と環境再生―寧夏回族自治区からの報告』(花伝社、08年)に次ぐ第2弾の研究報告だという。

中国西部地域の農村の今を伝えてくれ、現代中国認識を豊かにし、考えさせられることと請け合いの好著である。

このような驚くべき成果は、島根大学と寧夏大学とが80年代末から地

今井出版、17年3月、定価2500円+税(井手啓二|長崎大学・立命館大学名誉教授)

[書評]

中国農村における持続可能な地域づくり —中国西部学術ネットワークからの報告—

高根大学・寧夏大学国際共同研究所編
今井出版、2017年、308頁、2,500円+税、ISBN：978-4866110714

中国寧夏回族自治区は、中国西北部に位置する少数民族（回族）自治区であり、広大な土地・農地・豊富な鉱物資源を有する。一方、表土流出、砂漠化などの環境破壊が進行する地域でもあり、厳しい自然条件が発展をもたらす社会・経済への制約が大きく、貧困層の多い地域としても知られている。このような過酷な自然条件・環境問題・貧困問題を抱える「条件不利地域」は、中国の急速な経済成長過程においてどのような変化を遂げ、如何なる問題に直面しているのだろうか。

本書は、寧夏回族自治区及び周辺地域における農村・農業の持続可能性を研究の軸として、農業経営・農民生・貧困扶助・移住・環境汚染・エネルギー・退耕還林など多様な側面に焦点を当てた学際的かつ総合的な研究成果である。日本・中国の人文・社会科学、自然科学の研究者40名による国際共同研究であり、15編の論文（序章を除く）が収められている。

各章のタイトルは以下の通りであり、多様なテーマが取り上げられている。

第1章「中国寧夏農村の社会関係資本（Social Capital）賦存状況の地域差とその変容に関する考察—寧夏都市近郊農村と南部山区農村との比較から」、第2章「農業産業化に果たす農村小金融の役割と農業園区経営方式—寧夏回族自治区塩池県を事例に」、第3章「出稼き山村における住民活動と農業の変容—寧夏南部山区彭陽県の事例から」、第4章「農村における帰郷者の起業—寧夏回族自治区彭陽県の事例から」、第5章「中国のダム移住者に対する後期支援政策の実践—貧困扶助と持続可能な発展を目指した政策介入」、第6章「武陵山区における土家族住民の合理的選択に基づく低地への自主移住—重慶石柱県汪龍村を中心に」、第7章

「中国農村部における農業用プラスチックの使用実態の解明と適正処理へ向け—寧夏回族自治区における調査から」、第8章「中国農村と都市における家庭のエネルギー需給構造の実態—寧夏回族自治区のアンケート調査より」、第9章「中国の退耕還林政策の実施効果に対する評価に関する研究—陝西省を例として」、第10章「寧夏大学の学生の留学ニーズに関する調査報告」、第11章「寧夏塩池県のこの10年間の植生動態と安定性についての研究」、第12章「寧夏灌漑区における水田の窒素損失と農業排水の水質管理」、第13章「封山禁牧政策下での灌羊栄養特性—寧夏塩池県での舎飼い飼養灌羊の調査事例」、第14章「中国の農業安全の階層構造に関する分析」、第15章「荒漠化—貧困克服と環境再生」。

各章の分析は、中国農村地域の新たな変化を捉えようとするものであり、多様な実態が浮き彫りになる。全てを紹介することはできないので、評者が特に着目した点を紹介したい。

例えば、第5章は、ダム開発によって移住を余儀なくされた住民への後期支援政策（移住後の貧困扶助と持続可能な発展が目的）について分析している。これまでに中国各地で行われてきたダム開発の規模は凄まじく、膨大な人数の居住者が移住を余儀なくされた。評者が着目した点は、この移住民が受け取る後期支援の資金の一部が、電気料金の値上げによる付加価値税の増収分によって賄われているという点である。つまり、中国ではダム開発に伴う移住者への後期支援策の資金の一部を、電気使用者が負担していることになる。本文では、この資金をめぐる利害関係が整理されており、後期支援策への資金供給者は電気使用者と

経営規模が大・中クラスのダム企業、資金利用者は移住者村、受益者は国家電力会社とされている。

このように国・電力会社・地方政府が主体となって開発する大規模な電源立地と運営に伴って発生する費用を、電力使用者が負担するという制度に類似したものは日本にも見られる（電源開発促進税法）。本章では中国の場合、人口が多いため、電気使用者の負担はわずかであると指摘されているが、費用負担の実態、税財政の仕組み、制度の具体的内容については、今後さらに踏み込んだ分析を進める必要があろう。

また、本章の分析だけでは、ダム開発の規模による支援策の違いの実態、移住者の貧困の改善状況や就職（再就職）状況の実態、移住地域への定住・再移住の実態、などの点は明らかではない。この点では、実際の移住者へのアンケートや継続的な現地調査・生活調査などによって、より実態に踏み込んだ研究が必要であらう。

第7章は、農業用廃プラスチックによる汚染（白色汚染）問題について、販売・流通・回収の実態から捉えようとする。寧夏回族自治区における現地調査やアンケートによって、2006年以降の農業税免除など農業優遇政策によって農業用プラスチックの利用が拡大傾向にあるなか、一部で民間の回収・リサイクルのルートが存在するものの、回収率が低く、総合的な管理体制が整っていない問題点が指摘される。これと類似の問題として、E-Waste（廃電気電子機器）の問題を挙げることができる。中国では、家電等の電子機器も農村の発展と政府の購入促進策に伴い、急速に普及しているが、農村部で大量に発生するE-Wasteの回収・管理体制は未だ整っていない。これらの廃棄物の問題は、農村地域で今後も深刻化することは間違いなく、回収・処理を如何にして行うかが重

要な課題となっている。

本書は、これらの章以外にも当地の大学及び研究者との共同研究無くしては達成しえなかった貴重な研究成果が取められた価値ある学術書である。一方、中国との共同研究で難しいのは、貧困・環境・開発の点で特に深刻な状況下にある地域の調査・研究が制限されるところにある。本書においても、寧夏回族自治区において経済成長に伴い深刻化している環境問題の実態（例えば、大気汚染・水汚染・土壌汚染、鉱山開発に伴う汚染など）、それをめぐる当地の政治・経済・社会の動向（寧夏自治区のそれら問題の特徴）、農村地域との関係、影響などを浮き彫りにする章（研究）があれば、なお、実態に迫ることができたと思われる。

しかし、中国での共同研究という手法は、現地の人々の協力に基づいた実態把握が進められる反面、当地の政府が許可する現場以外のところを見えにくくし、そのような、いわば「隠された問題」を明らかにできないという難しさがある。これは、本書だけでなく、中国の貧困・環境問題を研究するにあたって直面せざるを得ない課題であらう。この課題は近年の情勢によってより困難な問題となっており、如何にして、最も困難に直面している地域・人々の実態解明と状況改善への貢献ができるか、といった課題に向き合っていかなければならない。

いずれにせよ、中国農村地域の貧困・開発・環境を継続的に調査・研究してきた成果であり、現地の多様な実態を明らかにする本書の学術的・社会的意義は大きい。本書が、中国研究、環境・農業研究に関わる研究者だけでなく、関心を持つ学生など多様な読者層に読まれることを期待したい。

知足章宏（フェリス女学院大学国際交流学部）

■日本学術振興機構「サイエンスポータルチャイナ」掲載記事

「書籍紹介：『中国農村における持続可能な地域づくり－中国西部学術ネットワークからの報告』（今井出版、2017年3月）」


https://www.spc.jst.go.jp/enjoy/bookreview/books_17_03.html

V-2 国際共同研究所ホームページ・トピックス

| 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 | |
|---|---|
| トピックス トップページへ戻る | 一覧 |
| | 2017 |
| 2017.12.04 | 2017年度中日青年科学技術担当者交流プログラム訪中団へ参加しました N |
| 2017.11.21 | 第一回東アジア六次産業フォーラムに参加しました |
| 2017.11.21 | 西北農林科技大学で留学説明会を開催しました |
| 2017.11.14 | 在上海日本国総領事館主催の留学フェアに参加しました |
| 2017.11.07 | 寧夏大学で島根大学交換留学説明会を開催しました |
| 2017.10.25 | 日本寧夏友好交流協会主催の銀川訪問団が研究所を訪問されました |
| 2017.10.17 | 第15回日中国際学術セミナーを開催しました |
| 2017.08.28 | 寧夏大学日本語科の学生が出口副学長を表敬訪問しました |
| 2017.07.03 | 2017年 第15回寧夏大学・島根大学国際学術セミナー開催通知 |
| 2017.06.05 | 第2回寧夏島根友好交流関係者同窓会を行いました |
| 2017.05.05 | 『中国農村における持続可能な地域づくり』を刊行しました |
| 2017.03.31 | 国際共同研究所の年報 第10号を発刊しました |
| 2017.03.23 | 中国人民大学での留学説明会に参加しました |
| 2017.03.18 | 伊藤所長・一戸副所長が大連東軟信息学院を訪問しました |
| 2017.03.16 | 銀川における日本留学研修経験者意見交換会・交流会を開催しました |
| 2017.03.16 | 寧夏大学で大使館主催の留学説明会が行われました |
| 2017.03.16 | 伊藤所長・一戸副所長が寧夏大学を訪問しました |

※詳細については、島根大学・寧夏大学国際共同研究所のホームページをご覧ください。

<http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix.html>

| 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 | |
|---|--|
| トピックス トップページへ戻る 戻る | 国際共同研究所の年報 第10号を発刊しました |
| | 島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報の第10号(2016年度版)が2017年3月末に発刊されました。 |
| |  |
| | 第10号(2016年度版) クリックするとPDFが開きます |

| | |
|--|--|
| | <p>ご用命の際は島根大学学術国際部国際交流課までお問い合わせください。 TEL:0852-32-9735 / FAX:0852-32-6481 Email: ied-koryu@office.shimane-u.ac.jp ※メールアドレスは迷惑メール防止のため、画像ファイルで掲載しています。</p> <p>過去の年報については「年報一覧」ページをご覧ください。</p> |
| Copyright(C) 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 All Right Reserved | |

| 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 | |
|--|---|
| <p>トピックス</p> <p>トップページへ戻る</p> <p>戻る</p> | <p>『中国農村における持続可能な地域づくり』を刊行しました</p> <hr/> <p>この度、島根大学・寧夏大学国際共同研究所編著による成果図書、『中国農村における持続可能な地域づくり-中国西部学術ネットワークからの報告-』を刊行しました。</p> <p>本書は、島根大学・寧夏大学国際共同研究所として、日中国際共同研究の成果をまとめた図書の第2集で、2008年に刊行した第1集「中国農村の貧困克服と環境再生」後の研究成果をまとめたものです。</p> <p>共同研究のスタンスは、技術開発・政策・教育を通じた現状改善、持続可能なあり方を志向し、研究の範囲、対象地域、メンバーも拡大しています。</p> <p>本書に収められた研究成果は、中国の急速な発展の中で、その発展のひずみが集中している西部地域の条件不利地域・貧困地域の真の意味での発展に資する研究であり、我々は今後この方針を進めていく所存です。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: center;">目次はこちら</p> <p>ご用命の際は下記にご連絡ください。 Email: neika_kenkyusho@soc.shimane-u.ac.jp ※メールアドレスは迷惑メール防止のため、画像ファイルで掲載しています。</p> <p>その他の刊行物については「刊行物案内」ページをご覧ください。</p> |
| Copyright(C) 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 All Right Reserved | |

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

第2回寧夏島根友好交流関係者同窓会を行いました

平成29年6月4日、ワンダー嘉華ホテルにて第2回寧夏島根友好交流関係者同窓会を行いました。この同窓会は、島根県民交流団の寧夏訪問に合わせて、NPO法人日本寧夏友好交流協会と当研究所の共同主催により開催したもので、島根滞在経験のある留学生や交流員、研修生その他、在寧日本人ら74名が参加しました。

主催者代表である日本寧夏友好交流協会の森井三郎副会長による挨拶では、来年平成30年に島根と寧夏の交流が25周年を迎えること、この20年以上の間に、多くの人々が寧夏と島根を行き来し、交流が広がったこと等が語られました。現在、情報の多様化等から、寧夏から島根に来る留学生等の数は減っていますが、今後介護士養成等の新しい事業を通して、両地域の交流をより活発に行きたいということです。

久しぶりに顔を合わせた旧知の友人たちとの語らいは楽しく、また、初めて会った時には学生だった人がお子さんを連れて参加してくれる等、月日の流れを感じる変化を喜びながら、楽しい夜は更けていきました。

当研究所としても、寧夏に拠点を置く島根の機関として、今後も両地域の交流を盛り上げる一助となれればと考えています。



島根大学・寧夏大学国際共同研究所

トピックス

[トップページへ戻る](#)

[戻る](#)

2017年 第15回島根大学・寧夏大学国際学術セミナー開催通知

国際間の広い学術的情報交流を通して、学術的見地を活発化させ、中日両国の研究者の科学技術及び人文社会科学的研究を推進することを目的とし、2017年10月12～14日、島根大学と寧夏大学の共同主催、島根大学・寧夏大学国際共同研究所、寧夏大学人文学院、寧夏大学外国語学院の共同実施による「2017年第15回中日国際学術セミナー」を寧夏大学で開催いたします。

○主 催:

島根大学、寧夏大学

○実施部門:

島根大学・寧夏大学国際共同研究所
寧夏大学人文学院
寧夏大学外国語学院

○セミナー名称:

2017年第15回中日国際学術セミナー

○メインテーマ:

大局的見地からの地域社会の発展に関する学術的対応の可能性

○分 野:

1. 自然科学分野の研究
2. 人文社会科学分野の研究
3. 日本の中山間地域と中国寧夏地域に関する問題の比較研究

○発表募集範囲:

メインテーマ及び分野に沿った研究成果または最新の関連研究成果

○日 程:

10月12日(木):受付(～18:00)

10月13日(金):セミナー 1日目

開幕式(於:島根大学・寧夏大学国際共同研究所4階学術報告庁)

主題報告(2～3本)

個別報告 ※人文科学・社会科学・自然科学等に分科会を設置予定

(於:島根大学・寧夏大学国際共同研究所4階・3階・1階)

10月14日(土):セミナー 2日目

個別報告(人文科学,社会科学,自然科学等の分科会ごと)

(於:島根大学・寧夏大学国際共同研究所4階・3階・1階)

総括(於:島根大学・寧夏大学国際共同研究所4階学術報告庁)

○使用言語:

日本語, 英語, 中国語

○報告時間:

1人30分(報告10分, 通訳10分, 質疑10分)

○申込締切:

2017年09月01日

○参加費用:

無料。宿泊費・食費・交通費等は自己負担。

申込方法

300字前後の論文要旨を、作者氏名、職務、所属、連絡先、発表タイトルを明記の上、中国語訳をつけて下記担当者まで提出してください。

・要旨提出締切:2017年09月01日

・発表PPT提出締切:2017年09月15日

・論文原稿投稿締切:2017年11月30日

學術図書の出版

発表者の中から、セミナー学術委員会の審査の上論文執筆者を選抜し、研究所の成果として寧夏人民教育出版社より學術図書を出版します。

島根大学・寧夏大学国際共同研究所から論文執筆依頼を受け取った参加者は、11月30日（木）までに中国語によりWordで作成したA4版、8000字前後の論文原稿をEメールで提出してください。その際、氏名と論文原稿であることを明記してください。

※現時点では原稿は中国語のみを予定しています。

担当者

島根大学・寧夏大学国際共同研究所 蔵 志勇
メールアドレス：zangzy6@163.com 電話番号：+86 18795180163

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

寧夏大学日本語科の学生が出口副学長を表敬訪問しました

平成29年8月25日、NPO法人日本寧夏友好交流協会の招きで島根県を訪れた寧夏大学外国語学院日本語科の学生6名及び引率の朱海燕外国語学院副院長が島根大学を訪れ、出口副学長を表敬訪問しました。面会には、国際交流センターの青教授、当研究所の関副所長、田中研究員も参加しました。

表敬訪問では、まず歓迎のあいさつとして、出口副学長から、寧夏大学との交流は約30年前から始まり、今年は学術交流協定締結20周年であること、また、今回の研修を通して、一人でも多くの学生に島根大学に留学してもらいたいこと等が述べられました。続いて、朱副院長からも、交流が長く続いていることによって学生たちも研修等の機会が得られ、将来に向けての大きなチャンスとなっていること、今後も交流が続いていくように願っているとの希望が述べられました。歓談では、島根に来た印象や、今回の研修で経験したいこと、学生たちが日本語を勉強するようになったきっかけ等について交流が行われました。

学生たち一行は、今後1週間の島根県滞在で、松江市と浜田市を訪問し、民泊を経験したり、温泉や紙漉きといった日本文化に触れたりする予定だということです。



トピックス

[トップページへ戻る](#)

[戻る](#)

第15回日中国際学術セミナーを開催しました

平成29年10月13日(金)、寧夏大学において第15回日中国際学術セミナーが開催され、基調報告3本、分科会発表10本、計13本の学術報告が行われました。本学からは、保母武彦顧問、伊藤勝久所長、関耕平副所長、田中奈緒美研究員が参加しました。

基調報告は、寧夏大学人文学院の胡玉氷学院長による「寧夏大学図書館が所蔵する日本で印刷された漢語文献5種について」、田中研究員による「話題開始ストラテジーから見る話題転換方法の日中比較研究—メタ言語表現を中心に」、蔵志勇研究所中国側副所長による「電子商務取引及び『道の駅』モデルが担い得る寧夏西海固地域の真の貧困削減の促進に対する役割」の3本、分科会では、人文科学、社会科学、自然科学の各分野の報告が行われ、今後の学際的な共同研究の広がりにも期待が持てる内容となりました。

その他、14日(土)には、エクスカージョンとして銀川市西側郊外に位置する華西村を訪問し、観光・文化産業により発展する村の状況を視察しました。また、旧知の研究者の方々との意見交換を行う機会もあり、セミナーをきっかけとして実際に顔を合わせて話をする事で、交流がさらに深まりました。



第15回セミナープログラム

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

日本寧夏友好交流協会主催の銀川訪問団が研究所を訪問されました

平成29年10月21日、(特非)日本寧夏友好交流協会主催による銀川訪問団6名が研究所を訪問し、田中研究員及び寧夏大学外国語学院東語系日本語科の教員・学生と面会しました。今回は、同協会が島根県民交流団を組織して行う寧夏バイシーターン林場の植林状況の視察や、島根県介護福祉士養成施設連絡協議会が協定を結んだ銀川大学健康管理学院の訪問等のために銀川市を訪れたことに伴い、来年度の日本語科の学生の島根招聘事業に関する相談と、受入予定の学生との交流のために研究所を訪問したものです。

まず、一行は、田中研究員から研究所の設立経緯や事業内容についての説明を受けながら研究所内を視察しました。続いて会議室に移り、グループに分かれて学生と交流しました。交流には、今年8月に島根を訪問した4年生2名も参加し、島根でお世話になった方々との再会を喜んでいました。また、来年訪問予定の3年生からは、訪問の時期や島根の見どころ、中国と日本の習慣の違い等について数々の質問が飛び出し、にぎやかな交流会となりました。

同協会による学生の島根招聘事業は、来年8月、県や島根大学、島根県立大学への表敬訪問の他、ホームステイ等が行われる予定です。



Copyright(C) 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 All Right Reserved

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

寧夏大学で島根大学交換留学説明会を開催しました

2017年11月6日、寧夏大学外国語学院にて島根大学交換留学説明会を開催し、本学の交換留学制度について説明を行いました。今回の説明会は、寧夏大学外国語学院から、交換留学制度を利用して、来年度から各学期2名ずつ、年間計4名の学生を派遣したいとの申し出があったことを受け、募集時期に合わせて開催したもので、対象となる日本語科3年生18名のうち、11名が参加しました。

説明会では、まず当研究所の田中研究員から交換留学制度の特徴や、必要な経費、手続き等について説明を行いました。続いて、外国語学院東語系日本語科の周彩華副主任から、寧夏大学における選抜方法について説明が行われ、その後質疑応答を行いました。質疑応答の際には、本学の卒業生である研究所中国側の李楊所員も参加し、取得すべき単位数等学業に関することや、1か月の家賃や食費等生活に関することまで、学生から投げかけられる具体的な質問に答えました。

当研究所では、今後も必要に応じて説明会を行い、日本及び留学に興味を持つ学生たちへの情報提供を続けていきたいと考えています。

説明会の様子



島根大学・寧夏大学国際共同研究所

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

在上海日本国総領事館主催の留学フェアに参加しました

平成29年11月11日(土)、在上海日本国総領事館広報文化センターにて開催された総領事館主催の日本留学フェアに田中研究員が参加し、島根大学ブースを担当しました。今回のフェアには、島根大学の他に大阪大学、立命館大学等、20大学が参加し、各ブースにて大学の紹介や質疑応答を行いました。また、総領事館の留学アドバイザーによる日本留学の概要の説明や、留学経験者との交流等も行われました。

当日は221名の参加者があり、島根大学のブースには約30名が説明を聞きに訪れました。特に中学生や高校生と一緒に参加する保護者が多く、中国沿海部における留学熱を強く感じました。また、子供が東京の日本語学校に留学しているという男性の話によると、東京周辺の日本語学校ではなかなか地方大学の情報が入ってこないということで、このようなフェアに参加し、直接顔を見て説明することの重要性を改めて認識しました。

本研究所は、今後も日本関連機関が行う留学フェア等に積極的に参加し、中国各地域にて広報活動を行っていきます。



Copyright(C) 島根大学・寧夏大学国際共同研究所 All Right Reserved.

島根大学・寧夏大学国際共同研究所

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

西北農林科技大学で留学説明会を開催しました

平成29年11月15日(水)、中国陝西省楊凌にある西北農林科技大学にて、島根大学の留学説明会を行いました。今回の留学説明会は、翌日に同大学で開催される第一回東アジア六次産業フォーラムへの参加に伴って行ったもので、2016年に引き続き2回目となります。

人文社会学院の一室で行った説明会には、経済学や地質学等の専門の学生約20名が集まり、田中研究員による島根大学の概況や学生生活に関する説明に耳を傾けました。その後の質疑応答では、島根大学で学ぶことができる研究分野や、学生が利用できる研究室の設備等、具体的な質問が投げかけられました。今回は、交換留学生の募集時期と重なっていたことから、交換留学の応募に関する質問も多く見られました。応募が実現すれば、西北農林科技大学からの留学生第一号となります。さらに、昨年のさくらサイエンスで島根大学を訪問した学生からは、同様の短期研修の可能性や、ポスドクの受入制度についても質問があり、西北農林科技大学における島根大学の認知度が上がってきていることを実感しました。

今後も、内容を逐次更新しながら、協定校等における留学説明会を継続して行っていきます。



Copyright(C)島根大学・寧夏大学国際共同研究所 All Right Reserved.

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

第一回東アジア六次産業フォーラムに参加しました

2017年11月16日(木)、中国陝西省楊凌にある西北農林科技大学にて、第一回東アジア六次産業フォーラムが行われ、本研究所から、関副所長と田中研究員が参加しました。このフォーラムは、西北農林科技大学、楊凌モデル区管理委員会、大学新農村發展研究院共同刷新戦略連盟による共同開催で、日中の研究者及び企業の代表者計9名による報告が行われ、約200名が参加しました。

午前中の主題報告は、日本側から農林中金総合研究所の皆川芳嗣理事長による「日本における六次産業化—六次産業化論の系譜と今日的意義」、中国側から復旦大学の張来武教授による「中国における六次産業発展」の2本で、両国における六次産業化理論の発展と実践の概要について報告されました。午後からは7本の個別報告が行われ、関副所長は、「島根県における六次産業化の実態—吉田ふるさと村を事例に」というタイトルで、農産物加工から始まり、観光や宿泊施設の運営、原料生産(農業)に参入し、地域再生に取り組んでいる事例を報告しました。中国側の報告では六次産業化の理論を実践している企業経営者からの報告も多くみられ、農村での六次産業化を模索している中国農村の生き生きとした姿を垣間見ることができました。

東アジアの六次産業をテーマとしたフォーラムは今回が初めてで、来年度以降も継続的に日中両国における開催が予定されているということです。



島根大学・寧夏大学国際共同研究所

トピックス

[トップページへ戻る](#)
[戻る](#)

2017年度中日青年科学技術担当者交流プログラム訪中団へ参加しました

私たちの研究所はこれまで、30年近くにわたって農村開発を中心とした国際共同研究を進めてきました。このたび、少し毛色が違いますが、科学技術の相互交流を促進するという中日青年科学技術担当者交流プログラムに参加できたことで、日中の科学技術交流の重要性を改めて認識し、私たち研究所も、自然科学分野や科学技術の分野での交流をさらに発展させていく必要性を感じるのと同時に、そのための基礎を固めることができたと感じています。

河南省鄭州市を中心に大学の研究施設や製薬工場、大型機械やバスの製造現場といった先進事例を視察することができました。こうした視察先で最も印象的であったのは、スケールの大きさです。視察先の規模や大きさは、日本との対比でいえば規格外であり、度肝を抜かれるものでした。それと同時に感じたのは、日本における繊細な先端技術や行き届いたソフト面を念頭に置くと、日中が科学技術分野で、国際共同・協力をすすめ相互補完的な役割を発展させることで、無限の可能性が広がるのではないかと感じました。

以上のように、本交流プログラムに参加することで、多くのことを学ぶことができ、今後の私たち国際共同研究所の活動方向性についても展望できる貴重な機会となりました。

日本の科学技術担当者や研究者の方々の国際交流について、本研究所でも側面支援はもちろん、今後、大いに担っていければと考えています。貴重な機会をご提供いただいた中国側およびJSTをはじめとした関連の皆様にお礼申し上げます。

島根大学法文学部 准教授／島根大学・寧夏大学国際共同研究所 副所長 関 耕平

視察風景



島根大学・寧夏大学国際共同研究所
NEWS LETTER

2017
vol.01

新ニュースレターの発行を始めました



所長からのご挨拶

皆さんこんにちは。島根大学・寧夏大学国際共同研究所は、寧夏自治区の人材育成を目的としてJICAの円借款により2004年に寧夏大学内に開設されました。この間、共同研究の他、研究者の長期受入や寧夏への派遣、学生派遣や留学受入の窓口として業務を行ってきました。ここ数年は、寧夏だけでなく中国西部地域の各地の大学との研究ネットワークをつくり、研究分野・対象地域を拡大しながら、国際研究を進めています。中国西部は研究テーマや人材の宝庫です。関心のある多くの方と、研究交流を広げていきたいと思っています。

日本側所長 伊藤勝久（生物資源科学部）

『中国農村における持続可能な地域づくり』を刊行しました

3月31日、島根大学・寧夏大学国際共同研究所編著による図書、『中国農村における持続可能な地域づくり-中国西部学術ネットワークからの報告-』を刊行しました。

本書は、2008年に刊行した第1集『中国農村の貧困克服と環境再生』後の日中国際共同研究の成果をまとめたものです。本書に収められた研究成果は、中国の急速な発展の中で、その発展のひずみが集中し都市部との格差が拡大している西部地域の条件不利地域・貧困地域について詳細に調査分析したものです。貧困克服・環境保全・安定的村づくりなど多岐にわたりますが、収められたテーマと研究成果は真の意味でこの地域の発展に資する研究であり、我々は今後もこの方針で進めていく所存です。

※詳細はHPで <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix/20170505jizoku.html>



第15回日中国際学術セミナーの開催と参加者募集のお知らせ

10月13日（土）14日（日），寧夏大学にて第15回日中国際学術セミナーを行います。全体テーマ及び分野に沿った研究成果を募集します。ぜひご参加ください。

- 主催：寧夏大学，島根大学
- 実施：島根大学・寧夏大学国際共同研究所，寧夏大学人文学院，外国語学院
- 全体テーマ：大局的見地からの地域社会の発展に関する学術的対応の可能性
- 分野：1. 自然科学分野の研究 2. 人文社会科学分野の研究
3. 中国寧夏地域と日本の中山間地域に関する問題の比較研究

- 使用言語：日本語，英語，中国語
- 発表時間：一人30分（報告・通訳・質疑各10分）
- 申込方法：300字前後の論文要旨を，作者氏名，職務，所属，連絡先，発表タイトルを明記の上，中国語訳をつけて期日までに提出してください。
- 要旨提出締切：2017年09月01日、発表PPT提出締切：2017年09月15日
- 提出先：zangzy6@163.com（担当：蔵）



※詳細はHPで <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix/20170505jizoku.html>

寧夏回族自治区について

寧夏は中国西北部の省区で，首都北京から西に約800キロのところに位置します。中国全土で5つある少数民族自治区の1つで，人口約700万人のうち，約30%が回族です。



寧夏内は，北と南で様相が異なります。北側は平原が続き，トンゴリ砂漠とモウス砂地に挟まれた乾燥地域ではあるものの，黄河からの灌漑を利用して農業が盛んに行われており，クコ，西瓜，羊肉等が特産です。また，石炭等の鉱物資源も豊富です。一方，南側は黄土高原で，生態環境が脆弱で資源も少ないため，貧困が今なお続く地域となっています。



※HPのコラムもどうぞ <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/Neika-tenbyou.html>

島根大学・寧夏大学国際共同研究所 NEWS LETTER

2018
vol.01

今、中国西部地域で求められる研究成果

国連の2030アジェンダと国際共同研究所

2015年開催の「国連持続可能な開発（発展）サミット」は全会一致で、人間、地球及び繁栄のための2030アジェンダを決め、「持続可能な開発（発展）目標（SDGs, Sustainable Development Goals）」を提起しました。SDGsの目標は、「貧困・飢餓」「格差」「気候変動」「エネルギー」「平和」などに及んでいます。SDGsの達成にいかに関与するのか——島根大学として考え、実践すべき課題です。



当研究所の開設当初からの目的は、このSDGsの学問的遂行と期せずして一致しています。研究所は、一貫して「気候変動・環境」や「格差・貧困」問題に取り組み、中国の奥地に「持続可能な開発」の力量を育ててきました。研究所が国連のSDGs達成に一層貢献することが期待されます。

日本側顧問 保母 武彦

「日中国際学術セミナー」から見る注目課題

当研究所では、2005年から13年間に渡って、日中国際学術セミナーを日中交互に開催しており、2017年で15回目を迎えました。各回のセミナーでは、「日中の条件不利地域における持続可能な発展」というメインテーマを軸に、様々な分野から報告がなされています。これまでの報告テーマを振り返ると、初期の「生産力の向上」や「貧困撲滅」という視点から、「荒漠化防止」や「環境教育」などの自然保護、「汚水処理」や「自然エネルギー」などの具体的技術による人間の営みと自然の共生を重視するテーマへと広がりを見せています。これは、中国の経済成長に伴う政策や人々の意識の変化の表れであり、当研究所が課題とすべきテーマが拡大していることを示しています。

交流を通じて、新たな共同研究の開始が期待されます。セミナー及び共同研究への皆様のご参加をお待ちしております。
※詳細はHPで <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/topix.html>



2017年度 第15回セミナーの様子
(於:寧夏大学)

寧夏の研究者に聞く中国西部の課題

寧夏を主とする中国西部地域の課題について、寧夏大学農学院生態研究センターの宋乃平教授に伺いました。(インタビュー：田中研究員)

●全体的傾向について

自分の専門は生態環境の再生なので、その視点から見れば、封山禁牧(自由放牧を禁止する政策)や生態移民(生態が脆弱な地域から住民を集団移住させる政策)などによって生態環境の改善は進んでいる。その一方で、生態移民後の人々の生活や就職、教育などには問題も発生しており、支援が必要である。



●求められているのは技術

現地在が現在求めているものとしては、生態保護や環境保全、農業生産などに関わる具体的な技術だと思う。例えば農村におけるごみ処理技術など。

近年「食の安全」が叫ばれており、多くの自治体や生産者が生産状況の改善に取り組んでいるが、市場規模が大きいだけに、社会全体の意識がそこまで高まっていない印象。「有機農業」の推進も、実際には減農薬程度にとどまっており、実用化にはまだ遠く、技術的な研究成果が求められている。

中国で発表された学術論文を日本語に翻訳しています

●今年度の翻訳論文(一部)

「封育政策が寧夏における荒漠化草原土壌の物理的性質及び有機カーボンに与える影響」
「民族地域における貧困解決メカニズムの実施とその効果及び問題—寧夏永寧県閣寧鎮を例として」

「都市と農村の収入差と新型都市化発展に関する動態相関分析」

「中国西部地域における人口年齢構造の変化が経済成長に与える影響」

※詳細はHPで <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/honyakuichiran.html>

●当研究所の中国国内定期購読雑誌

『農業経済』『農業資源と環境学報』『寧夏社会科学』『西北農林科技大学学報』など

※目次を随時HPに掲載しています。ご利用にはパスワードが必要ですので、下記までお問合せください。

当研究所では、中国で発表された学術論文の日本語訳を関係研究者に提供しています。過去に翻訳した論文のタイトル等をホームページに掲載していますので、ご入用の方は下記連絡先までお知らせください。ご希望論文の翻訳も承りますので、お気軽にご相談ください。

島根大学・寧夏大学
国際共同研究所

所在地：中国寧夏銀川市西夏区賀蘭山西路489号

学内連絡先：企画部国際交流課(内線：2072)

MAIL：neika_kenkyusho@soc.shimane-u.ac.jp

URL：http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp

V-4 事業計画

平成 29 年度 島根大学・寧夏大学国際共同研究所事業計画

1. 共同研究・研究交流事業

(1) 日中共同学術研究の推進

- ① 貧困と環境に関する国際共同研究の実施（寧夏大学、西北農林科技大学）
- ② 中国内陸部の家畜生産システムに関する研究（寧夏大学、西北農林科技大学動物科学院、蘭州大学 CCAST）
- ③ 中国側研究者による国際比較研究（日本中山間地域の調査研究等）の受け入れ・支援
- ④ 民間助成をはじめとした外部研究資金への申請と獲得
- ⑤ 留学生確保のための研究（学内、寧夏大学、中国の他大学）

(2) 学術交流事業の実施

- ① 第 15 回日中国際学術セミナーの実施（テーマ：大局的見地からの地域社会の発展に関する学術的対応の可能性）
日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進
- ② 西部ネットワークセミナーの実施（テーマ：社会変革下の西部地区における公的管理（public governance）と持続可能な発展）

(3) 研究ネットワークの拡充

- ① 日中国際学術セミナーの場を利用した共同研究・交流事業の推進（西南大学他との交流促進）
- ② 一層の自然科学系・工学系との交流拡大。特に自然科学系（コンピュータ科学・都市工学・水利工学・自然災害科学等）の研究交流
- ③ 客員・兼任研究員の更なる増員
- ④ 「現代中国地域研究」（国内の中国研究学術ネット）へのアプローチと参加

(4) 研究成果の発信

- ① セミナー報告論文集を出版（2018 年 3 月）
国際共同研究の成果に基づく国内学会誌、国際誌への論文の投稿
- ② 研究成果の公表（目標 6 報（上述雑誌投稿論文 4 報を含む）、他の研究成果に関する報告、口頭発表、記事等）

2. 国際的産学官連携事業の実施に向けて

島根県・寧夏回族自治区の間で 3 期 9 年にわたって行われた JICA 草の根技術協力事業（下水道整備および流域計画）の後継事業について、2017 年度から実施すべく、外務省、JICA、文部科学省などとの調整を行い、新たな草の根、国際的産官学共同を模索。

さらに松江市と銀川市との有機米に関する人材育成事業の後継事業に関しても実施に向け、各主体との連携・調整を図る。

3. 人材育成事業

- (1) 寧夏大学やその他周辺主要大学の留学希望者に対する情報提供と留学説明会の実施
- (2) 寧夏大学外国語学部日本語学科日本研修受け入れ
- (3) 島根大学留学経験者中国同窓会創設支援
- (4) 若手研究者の育成
国際学術セミナーおよび現地調査に参加する日中若手研究者の拡大
- (5) 自治体間国際交流・人材育成研修への協力
銀川市、自治区から人材育成研修受け入れに対する協力

4. 教育・交流への協力

- (1) 島根大学・寧夏大学国際共同研究所図書館の運営と充実
- (2) 寧夏大学日本語学科への講義の協力、実習生の受け入れ
- (3) 島根県、松江市、NPO 法人との情報交換・連携
- (4) 自治体間国際交流・人材育成研修への協力
- (5) 島根大学学生への情報提供、中国学生研修企画への協力
寧夏、西安等西部地区の歴史的・地理的特徴を生かした研修企画・協力

5. 研究所の運営

- (1) 各種委員会の開催
- (2) 研究所年報の発行（第 11 号、2017 年度版）
- (3) 研究資料の配信
 - ① 情報提供（寧夏情報の提供、ニューズレターの発行、研究所ホームページの充実）
 - ② 在中国日本国大使館のミニブログでの大学紹介
- (4) 文献翻訳・関連論文の提供
- (5) 希平会への出席による情報発信

島根大学・寧夏大学国際共同研究所年報 第11号 2017年度

2018年3月31日発行

発行者 島根大学・寧夏大学国際共同研究所
(所長 伊藤勝久)

〒750021 中国寧夏銀川市西夏区賀蘭山西路寧夏大学A区
TEL +86-951-206-1818

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学内
TEL 0852-32-6547 (伊藤勝久)、32-9735 (国際交流課)

Homepage <http://www.ningxia.shimane-u.ac.jp/index.html>
